

みんなで考え「実りの2学期」に

今年の夏休みは感染対策をしながらですが少しは普段学校ではできない体験活動ができるのではないかと考えていたのですが、昨年以上の感染拡大が起こり、緊急事態宣言が発出される状況になりました。緊張感を高め2学期を迎えることとなっています。

そんなコロナ禍の状況ですが、延期されたオリンピック・パラリンピックの開催、全国高等学校野球大会をはじめとする学生のスポーツ大会、音楽などのコンクールがどの分野においても「2年ぶり」という代名詞が付き行われました。

オリンピック柔道競技で金メダルを獲得した大野将平選手はインタビューで「(東京五輪開催への)賛否両論があることは理解しています。ですが、われわれアスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄に思います。」と話していました。感染できないという緊張感と目標を成し遂げたいというプレッシャーの中での練習や試合は本当に大変だったと思います。また、全国高等学校野球大会で優勝を成し遂げた智弁和歌山高校の選手は優勝が決まった瞬間、“歓喜の輪”を作らず、試合終了挨拶のために即整列したことも話題になりました。監督が指示した訳でなく、対応を選手に考えるように投げかけ、選手に判断を託した結果だったそうです。大会途中で出場を辞退した学校への思いもあったのか、コロナ禍において各方面の方々への感謝を表現しようとしたのか、選手たち自身が考えた対応に胸が熱くなりました。

コロナ禍において行事を行うことは感染の可能性を広げるリスクを伴うことになり、行事を開催することへの考えは本当に様々です。感染させない、広げないための対策を行う事が大前提ですが、そのうえで何を思い、どう行動したらいいのかを考えることが大切であるということのアスリートの姿から感じた夏休みでした。

2学期、学校では、修学旅行や自然学校、音楽学習発表会など、大きな行事が待ち受けています。感染状況によっては計画を変更せざるを得ないことになるかもしれませんが、学校行事は子どもたちの成長にとって大きな意義ある教育活動です。1学期の体育学習発表会実施後の子どもたちの表情とあいさつの声から、縮小版でしたが「できてよかった」と感じました。2学期の教育活動も感染対策は引き続き行い、子どもたちとPTAの皆様の声を聞き、みんなで考え、よかったと思える学期にしたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

(校報おやけ9月号より抜粋)